

(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

②バーチャル観光やワーケーション需要等、新たな観光価値提供に向けた受け入れ環境整備

<地域おこし協力隊を活用した観光振興事業>

令和2年度から、地域おこし協力隊制度を活用し、白石城内での甲冑体験の実施を中心に、歴史的観光資源や本市の特性を活かしたイベントの企画、実施を行っている。

また、Facebook、Instagram、X（旧Twitter）、Youtubeチャンネルを活用し、活動の様子や白石市の情報を発信しており、プロモーションの一役も担っている。令和5年9月から任用した隊員は、日本語・英語・中国語が堪能であるため、その特性を生かし、白石城をはじめとした白石市の魅力を広く国内外に発信しており、今後のインバウンド需要回復に向けた取り組みを行っている。

○令和5年度の主な活動

- 甲冑体験 インバウンド需要が回復傾向にあることから、外国人向け高級甲冑体験の新設
- 情報発信 外国人観光客の誘客に繋がるよう、多言語発信や掲載媒体を工夫し、インバウンド向けを意識した内容とした。
- その他 各種イベントへの参加、清掃イベントの実施、中国の年越し体験（予定）など



③地域のコンテンツの一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進（近隣観光需要の取込）

<国道113号（二市二町）観光推進協議会事業>

平成8年から、国道113号沿線の宮城県、山形県の二市二町の観光資源を共同でPRするため結成された協議会で、白石市から南陽市までの国道113号を愛称「みちのくおとぎ街道」とし、プロモーション活動を中心に、両県をまたいだ周遊を促進する事業を実施している。

また、「みちのくおとぎ街道」は、日本風景街道（所管国土交通省）に登録されており、道をテーマに地域ならではの風景や自然、文化など地域資源を活かした地域づくりを目指し、運営に係るミーティングなどに参加、他の登録ルートの団体と意見交換を行い、活動に活かしている。

○令和5年度の主な活動

- 「みちのくおとぎ街道」の知名度向上を目指し、道の駅に配架されている「おでかけみちこ」に記事を掲載
- また、二市二町の魅力を再発見及び発信することを目的とし、フォトコンテストを実施

○令和4年度実施事業

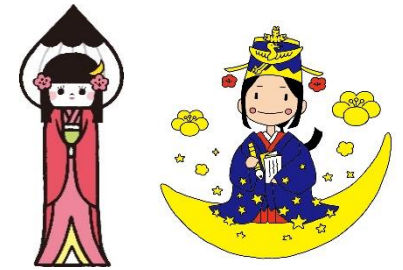
- スタンプラリー事業
- 広告掲載
- ツール・ド・みちのくおとぎ街道



「みちのくおとぎ街道フォトコンテスト」



令和5年度 角田市の主要事業について



(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

③地域のコンテンツの一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進（近隣観光需要の取込）

サイクルツーリズム推進計画策定事業

令和4年度策定したかくだサイクルツーリズム推進計画に基づきサイクリストたちの市内への誘致等を促進するために、環境整備やイベントの企画を各種団体と連携しながら実施する。

6月3日 ファミリーサイクリング コース：角田市交通公園～道の駅かくだ 参加人数：12名

阿武隈川の土手沿いを走行し、ライダー滑空場を見学、パークゴルフ体験を行う。今年から県内のサイクリストにガイドを依頼して、内容もサイクリストの意見を参考に変更して実施した。



(2) 広域連携による「みやぎ蔵王」ブランド戦略の展開や多彩な魅力のPRによる誘客促進

④周辺観光圏と連携した県内・県外客向け共同プロモーション

阿武隈急行沿線開発推進協議会事業

(1) 沿線活性化事業の開催

○あぶきゅうウォーク

・阿武隈急行沿線の5自治体にそれぞれウォーキングコースを設定し、参加者はウォーキングを楽しみながら各地の観光地を巡る。

4月30日 コース：角田駅～菜の花畑（往復）約9.6km 参加人数：90名

10月1日 コース：岡駅～角田宇宙センター（往復）約7.6km 参加人数：120名

(2) 角田市単独の阿武隈急行線利用促進事業

○体験乗車会&お絵かきトレイン（12月2日開催） 57名応募の中から、抽選で37名（市外37名）の親子が参加

・阿武隈急行駅長による「あぶ急クイズ」や切符の買い方体験、車両窓ガラスへのお絵かき体験。



(3) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在型メニューの充実

①アドベンチャーツーリズムなどの多彩な体験型観光メニューや滞在型コンテンツ商品の造成

グリーンツーリズムによる体験型観光の実施

6月19日	梅もぎとり収穫体験	青梅収穫体験、梅ジュース作り
8月20日	とうもろこし収穫体験	とうもろこしの収穫、袋いっぱい詰め放題
10月1日	枝豆収穫体験	秘伝豆の収穫、袋いっぱい詰め放題 中止
10月28日、29日	ねぎまつり（ねぎ収穫体験）	ねぎの収穫、袋いっぱい詰め放題 中止

4月23日、5月14日、7月2日、9月3日

梨園再生チャレンジ 休耕農地の再生に取り組んでいる梨園の梨が出来るまでの年4回お手伝いをして収穫までを体験。

各種まつりの開催

菜の花まつり	4月22日から5月5日
宇宙っ子まつり	5月5日
梅まつり	6月11日・12日
ずんだまつり	10月1日 中止
牟宇姫ひなまつり	令和5年2月から3月

(1) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在型メニューの充実

① アドベンチャーツーリズムなどの多彩な体験型観光メニューや滞在型コンテンツ商品の造成 ＜蔵王町体験交流活動推進協議会事業＞



陶芸教室(蔵王焼 万風窯)



こけし絵付け体験(みやぎ蔵王こけし館)



アイスクリーム作り体験(蔵王酪農センター)

○体験交流活動に係る受入体制の整備、関係団体との連携、連絡調整を継続して実施

○令和5年度実績:「教育機関」仙台市立小学校1校、中学校3校／県内中学校1校／県外中学校1校…計6校
「主要観光施設」みやぎ蔵王こけし館 等…延べ人数約6,000名(予定)



小鳥ブローチ作り(ことりはうす)



森林散策(ことりはうす)



テーブルマナー(Active Resorts宮城蔵王)

(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

②バーチャル観光やワーケーション需要等、新たな観光価値提供に向けた受け入れ環境整備 農業体験などによる宿泊型交流事業

(株)ベガルタ仙台と七ヶ宿まちづくり(株)と連携し、町内の空き家をリノベーションした「ベガルタハウス」の畑を使い、種まきから収穫、スタジアムでの販売を行ったほか、町内でできるアクティビティ「SUP体験」を通して新たな七ヶ宿での楽しみを体験してもらった。スポーツの推進として、小学校や七ヶ宿ダム自然休養公園運動広場（通称：スポーツパーク七ヶ宿ベガルタ仙台）を会場にサッカー教室を行い、現役のサッカー選手との触れ合いを楽しんだ。



(2) 広域連携による「みやぎ蔵王」ブランド戦略の展開や多彩な魅力のPRによる誘客促進

②蔵王ジオパーク構想などと連携した地域の食と観光のブランド化による誘客促進 七ヶ宿ブランド事業

「七ヶ宿ブランド」の更新認定を行うと共に新規認定品の発掘にも取り組んだ。町内の直売施設やイベントのほか、町公式ショッピングサイト「なないろストア」での販売を行った。パンフレット等を積極的に活用し周知・広報を行い、七ヶ宿ブランドの認知を図った。

- ・新規認定 4品 更新認定4品 特選品昇格 1品
- ・イベント販売



(3) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在型メニューの充実

①アドベンチャーツーリズムなどの多彩な体験型観光メニューや滞在型コンテンツ商品の造成 南蔵王やまびこの森事業

キャンプ場運営に加え、長老湖を利用した SUP体験や貸しボート事業のほか新たに売店営業を行うなどより多くの観光客に滞在していただけるような事業を行った。

SUP事業

利用者 R5 270人 R4 131人 (206%増) 売上 R5 1,032,000円 R4 523,000円 (197%増)



(3) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在メニューの充実

② 隣接地域との連携やテーマ性のある観光ルート形成

▶ 一目千本桜ブランド化事業（植樹100周年記念事業）

● 柴田町・大河原町の2町連携事業

- ・ 思い出フォトパネル展事業

令和4年度から2町で収集した100年間の桜の写真からパネルを作成し、各所で巡回展示を展開中。

- ・ 2町共通のポスター等によるプロモーション活動

JRドア上広告掲載 区間：東北本線、仙山線、常磐線 期間：10月～3月(6か月間)

- ・ 2町連携にぎわい創出事業

「一目千本桜100周年フォトロゲイニング2023」開催：10月29日(日) 参加者：108名

「一目千本桜植樹100周年ラリー」開催：10月7日(土)～1月14日(日) 参加店舗：103店（2町各50店程度）



▶ みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議

- ・ 初級サイクリスト体験ライド〔村田町コース〕

開催：12月28日(木) 参加者：27名予定（インストラクター5名含む）

中央公民館～村田ダム～ヨーグルト工房アトレイユ～道の駅村田～

姥ヶ懐民話の里～村田商人やましょう記念館～蔵トリア（昼食）～中央公民館

- ・ みやぎ蔵王三十六景デジタルスタンプラリー

開催期間：9月20日(水)～11月20日(月) 参加者：156名

遠刈田温泉利用券(15,000円) 1名

市町特産品(5,000円相当) 3名、(3,000円相当) 6名

- ・ サイクルラック設置

各市町に推進会議HPにリンクするQRコードを配したサイクルラック2基、のぼり旗2枚を配付

- ・ SNS等による各市町の自転車施策の情報発信強化

推進会議インスタグラムによる情報発信 ※各市町からの情報提供をお願いします。



(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

③地域のコンテンツの一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進（近隣観光需要の取込）

●宮城オルレ村田コースオープン

・2023年11月11日オープン。村田コースは、町の中心部と里山の距離が近く、歴史が色濃く残る「蔵の町並み」と自然豊かな里山の道を楽しめるコース。オープン当日はオープニングセレモニーが行われ、国内外から参加した約900人が景色を楽しみながらコースを歩いた。12月2日には「宮城オルレ村田コース」オープン記念トレッキングが行われ、町内外から約200人が訪れた。



●地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業【武将カート】

・村田町観光物産協会が主催となり、11月26日に開催。昨年に引き続き、伊達武将隊、山形愛の武将隊をゲストに呼び、対決（合戦）を実施した。一般参加者を足軽隊として募集し、各武将隊チームに分かれてポイントを競い合った。
・カートや貸出するプロテクター、ヘルメットなども全て武将仕様。当日は一般参加者及び武将隊ファンなどが来場した。



(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

③地域のコンテンツの一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進（近隣観光需要の取込）

○交流人口拡大事業

- 1年を通じた「花のまち柴田」をテーマにした四季の花まつり（通年観光の展開）
 - ・しばた桜まつり（3月31日～4月13日）230,000人（H31：274,000人。前年比84%）
 - ・しばた紫陽花まつり（6月16日～7月2日）15,765人（R4：11,393人。前年比138%）
 - ・しばた曼珠沙華まつり（9月16日～10月1日）11,466人（R4:10,176人。前年比113%）
 - ・みやぎ大菊花展柴田大会（10月20日～11月13日）
 - ・Shibata Fantasy Illumination（12月1日～30日）
 - ・しばたスプリングフラワーフェスティバル（R6年3月中旬）



(2) 広域連携による「みやぎ蔵王」ブランド戦略の展開や多彩な魅力のPRによる誘客促進

④周辺観光圏と連携した県内・県外客向け共同プロモーション

○「白石川堤一目千本桜」ブランド化事業（大河原町との共同事業）

- ・写真パネル展の実施
100年目の桜を撮影したパネルを制作。両町のイベントや商業施設で巡回展示を行っている。
- ・フォトログ大会の実施
地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツ。
10月29日（日）2町を舞台に、大河原町役場を発着所として開催。100名以上参加。
- ・デジタルスタンプラリーの実施
LINEを活用し2町の100店舗以上が参加するスタンプラリーを開催中。R6年1月14日（日）まで。



(3) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在型メニューの充実

②隣接地域との連携やテーマ性のある観光ルート形成

○ガーデンツーリズム推進事業（庭園間交流連携促進事業）

- 官民連携まちなか再生推進事業（国土交通省）の採択を受け、未来ビジョン（実行計画）の策定に向け、実証実験等を行っている。
 - ・キッチンカーキャラバンの実施
10月8日（日）村田町布袋まつり / 12月15日（金）～17日（日）大河原町イルミ
 - ・モニターツアーの実施
10月1日（日）柴田町（曼珠沙華まつり）～蔵王町（梨狩りほか） /
12月16日（土）大河原町（体験、イルミ）～柴田町（イルミ）



(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

③ 地域コンテンツ一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進ふるさと応援商品券発行事業

- 町民1人あたり6,000円分の商品券を配布し、約54,600千円の需要を創出する計画（第一弾）。令和5年6月より順次配布を開始し、7月1日から令和6年2月29日までの期間で使用率の向上を図る。
※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用
- 町民1人あたり5,000円分の商品券を配布し、約45,350千円の需要を創出する計画（第二弾）。令和5年12月より順次配布を開始し、令和6年2月29日までの期間で使用率の向上を図る。
※物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用

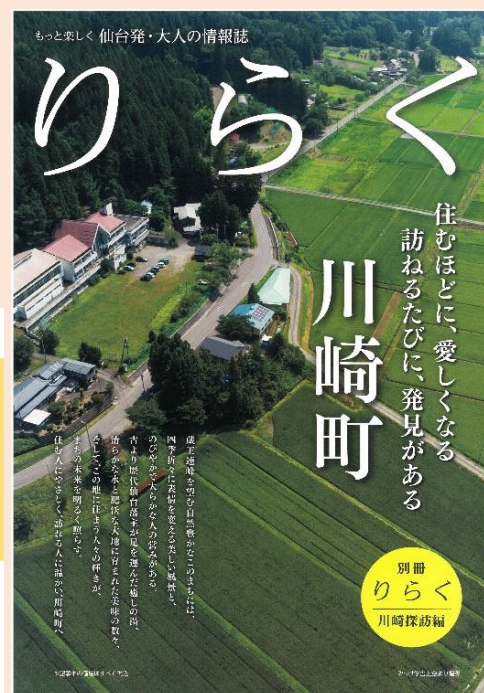


川崎町総合観光・物産情報誌作製事業

- 観光需要の変化に伴う紙面情報の精査と更新により、新たな誘客を図る。

包括的シティプロモーション事業

- YouTubeコンテンツ制作、ラジオ番組制作
- それぞれ月2回のペースで配信中
- 前年度からの継続



令和5年度 丸森町の主要事業の実施状況

(1) 新型コロナウイルス感染症による影響からの回復のための取組

③地域のコンテンツの一体的PRやテーマ性を持った広域周遊促進（近隣観光需要の取込）

丸森町町内経済活性化事業

(1) 5割増商品券販売事業【6月補正】

- ・ 事業費：29,000,000円
- ・ 発行総額：75,000,000円（1セット7,500円分、合計10,000セット）
- ・ 令和5年7月22日（土）販売

(3) 広域連携による多様で魅力ある周遊ルートの形成や、滞在型メニューの充実

①アドベンチャーツーリズムなどの多彩な体験型観光メニューや滞在型コンテンツ商品の造成 まるもりグリーン・ツーリズム推進協議会事業

○本年度の実績

- ・ 募集型体験企画（主催）

実施内容（御朱印つき猫神さま巡り（通年）、栗拾い体験（秋）、ころ柿作り体験（秋）、地域歩き企画（冬）



猫神さま巡り



栗拾い体験



ころ柿作り体験



地域歩き企画
（地域イベントと協力予定）

- ・ 地域への誘客、周遊のための御朱印・御集印の制作（七夕神社の御朱印制作）
- ・ 七夕神社周辺を巡るバスツアー企画（企画協力、旅行実施は丸森“こらいん”ツーリスト）